

ふれあいを重視した縦割り班活動で規範意識を育てる

目的

本校は少子化が進み、来年度は4年生以外が各学年1クラスになります。どの子ども大切に育てられていますが、自己中心的で耐性が足りない場面も見られます。そこで、まずは社会性を育てること、善悪の判断ができ、ルールが守れることを目標に職員がチームの力で徹底指導することにしました。

内容

● ふれあい班活動をスタート

○ 遊びを通して、「思い合い」「優しさ」「我慢すること」を育てる…〔週1回 金曜日の昼休み〕

- ・ 意図的に人と関わる機会を増やして、集団活動の楽しさや喜び、また集団で遊ぶときのルールや楽しく過ごす方法を班で考えさせました。高学年の子どもたちは期待に応えようと努力し、責任感が育ってきています。さらに、低学年児童からあこがられるようにと助言していますので、態度にも変化が見られるようになりました。



また、異学年交流を続けることで規範意識も生まれると考えています。

始めたばかりですが、確実に成長しています。高学年児童には、相手意識が育ってきて、優しい表情になってきています。6年生が班員一人でも見あたらないと必死で探している姿は、心を温かくしてくれます。

● ふれあい清掃への取り組み

○ 今年は「もくもく清掃」と名付け、週1日実施する

- ・ 上級生が下級生の手本となるように、また、普段の清掃以上に清掃場所全体のことを考えて真剣に清掃しています。下級生も、上級生の指示に従いながら黙々と清掃していて、それぞれの子どもにとっては「主体的に参加し、主体的に役割を担い、その大切さを実感する場」となっています。



● 子どもたちからルールを守ろうと発案したこと

○ 「廊下は右側を歩こう」

- ・ きまりは守らなくてはいけないというのは当然のことですが、雨の日はついつい廊下や階段を走ってしまいます。「どうしたら、校舎内を静かに安全に過ごせるか」について考えさせると、右の写真のようにペットボトルと段ボールで標識を作成してくれました。児童会の子どもの発案なので職員も共通理解し、指導にぶれがないようにして、徹底指導に取り組んでいます。



● あ い し よ う む めざす児童像を分かりやすく

○ 「あいさつができる子」、「自分のことは自分でできる子」、「しっかりと心と体をきたえる子」、「良いことと悪いことの判断ができる子」、「美しい心をもつ子」

- ・ この5つのことを頭において、どんな庵治っ子になるのかを常に意識させることにしました。これが落ち着いた学校生活に繋がり、さらに学力向上につながるものだと信じて取り組んでいます。

成果

異学年の人のために何かをすることで、相手に喜ばれたり感謝されたりしたという実感が生まれ、「人のために役立った自分」を意識化することができるようになってきました。ただ特別な場合だけでなく、日常生活の中で「人のために役立つ」行動を実践できるようにすることが、今後の課題です。